



さわらび

第 83・84 号

発行元:十和田市立中央病院 地域医療連携室
発行責任者:室長 丹野 弘晃
十和田市西十二番町14番8号
TEL 0176-23-5869
FAX 0176-21-1234

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/02renkei/04sawarabiNews.html>

地域医療連携室・室長就任のごあいさつ

平素は当院地域医療連携室の運用にご協力いただき、誠にありがとうございます。蘆野吉和先生の退任に伴い、室長を引き継ぐことになった丹野です。どうぞよろしくお願い致します。地域医療連携室は当院の顔であり、情報の発信と受信を司る重要な部署であると認識しております。今後もさらにきめ細かくスムーズに、患者さん中心の医療が継続できるように努めていきたいと思えます。

現在当院は上十三医療圏の二次救急医療機関としての役割を担っており、地域の中核的な急性期病院として機能しております。しかしながら、すべての救急患者さんや直接当院を受診された患者さん等に対応できていないわけではございません。



地域医療連携室 室長
(十和田市立中央病院 院長)
丹野 弘晃

特に平日は、予約中心の外来診療にマンパワーを傾注していることもあり、前述のような患者さんをお断りせざるを得ない状況もあります。そこで、長期処方が可能であるような比較的状态が安定している患者さんを逆紹介させていただき、結果として外来診療をやや縮小し、そこで生まれるマンパワーを救急診療や入院診療に振り向けたいと考えております。もちろん、逆紹介を推進するためには、かかりつけ医の先生方のご協力とともに、患者さんやご家族そして市民の皆様にも丁寧に説明し、納得していただかなければなりません。当院としては、果たすべき病院機能をしっかりと自覚し、皆様のご理解を得ながら徐々にこの方針を進めていきたいと考えております。同様な理由から、脳卒中を中心とした地域連携パスや5大癌の連携パスも積極的に展開していきたいと思っております。

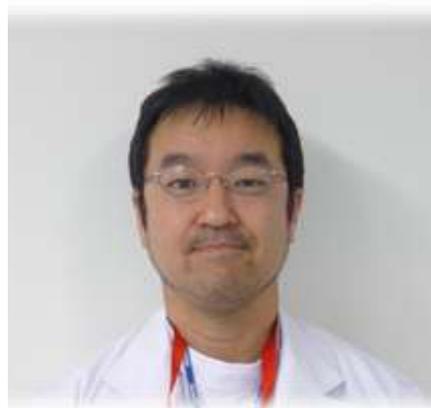
また、在宅医療連携拠点事業においては、以前からの基盤もあり確実な成果を挙げてきております。先日開催された北海道・北東北ブロックの会合では、当院の取り組みが高い評価を受け、全国大会での発表の機会を得たとの報告を受けております。超高齢化・多死社会の到来に備えて、当地域においても在宅医療の充実は必須ですので、今後もこの事業を継続していかねばならないと考えております。

以上のような当院の活動方針や内容を知っていただくためにも、今年は登録医の先生方との懇親の会を企画したいと思っております。当院職員が直接忌憚のないご意見を伺うことができる貴重な時間にもなると思えます。たくさんの刺激をいただきながら、より使いやすい連携室に進化して行きたいと思っておりますので、ご指導よろしくお願い致します。

地域医療連携室・副室長就任のごあいさつ

地域医療連携室の取り組みのひとつに、本年度の厚生労働省事業である在宅医療連携拠点事業（詳細はさわらび11月号をご参照ください）があります。私はその統括責任者として、このたび副室長に任命されました。宜しくお願ひ致します。

当院では今回の拠点事業が始まる以前から、前事業管理者の蘆野先生が、『住み慣れた場所で、その人らしく、最期まで安心して生活できる地域創り』を目指し、地域の医療・介護・福祉に従事している皆様方と連携して在宅ホスピスケアの体制を整えてきました。



地域医療連携室 副室長
吉村 純彦

ホスピスケアとは、現在の医療では治すことができない病気（がん、心不全、呼吸不全、腎不全等の終末期）や症状（老衰、食事を摂らない、意識が無い等）を抱えながらも、身体に負担をかけて延命治療をするのではなく、本人や家族の苦しみを和らげ、最期まで楽に生活できるように援助することです。ご自宅や長年生活していた施設等でも病院と同様のホスピスケアが受けられるようになり、昨年度は70名（がん50名、非がん20名）の方々が住み慣れた場所で看取りました。その希望者は年々増加し、今年度は100名程になると思われます。

人口7万人弱の地方都市で、これだけの方々が住み慣れた場所で看取りをしている地域は全国でもほとんどありません。医療資源が乏しい地方都市では、医療・介護・福祉が連携し、役割分担しながら協働していかなければ本人や家族を支えていくことはできません。短期間でこのような連携体制をつくり、たくさんの方々を支えている十和田の在宅ホスピスケアは全国的にも非常に先進的な取り組みです。

去る2月2日に北海道・北東北地域の在宅医療連携拠点事業活動発表会がありました。この発表会は、事業の普及促進認知向上を目的に、全国105ヶ所の事業所が、11ブロックに分かれて開催したものです。その中で十和田地域の特色のある取り組みは非常に高いご評価をいただきました。今回このような高い評価が得られたのも、地域の皆様方のご努力の賜物です。地域医療連携室一同、これを励みに、皆様方と一緒に在宅ホスピスケアをより一層推進していきたいと考えています。また広くこの取り組みを知っていただきたいと考えています。

引き続き皆様方のご理解とご協力を宜しくお願ひ致します。



健診センターの一年を省みて

はじめに：青森県は平均寿命、がん、心臓病、脳卒中のいずれも死亡率は自殺と並んでワースト、さらには健診の受診率もワーストと健康管理ワーストです。予防医学は健診受診からと言われてはいますが、当院でも、遅かりしかも知れませんが健診センターを立ち上げて本格的に始めました。今年度は丹野院長、婦人科の富浦副院長も加わり、スタッフの新規入れ替えで、婦人科のがん検診、乳がん検診の充実など検診内容も拡がりました。当初、1.スタッフの充実 2. 検査項目の拡大化 3. センター待合室のアメニティ 4 医療連携の充実 5. 健康相談コーナーを設ける。を掲げて始め、1年になろうとしています。



健診センター 室長 畑中 光昭

検査項目の拡大に関しては、吉村先生を中心に、検査項目にオプションも増やし、料金の調整等のためにも、医師会の先生方を訪問して連携を大切にしながら行なってきました。乳がん検診、婦人科がん検診も充実し、胃カメラを希望される受診者もオプションながら増加しました。メタボの受診者の専門外来の2次受診から栄養指導のコースもスムーズに行なわれているようです。脳ドックに関しても受診者が増加しました。リピーターも増加しており、健康管理に関心を持たれる方が多い事がわかりました。脳ドックに関しては受診希望者が多いのですが料金の問題が、受診を躊躇されるようなので、より負担が軽くなり受診していただけるように検討中です。問題点もありました。

スタッフが自由に仕事に専念できるようにと、新しいスタッフが増えましたが初年度の、勉強をしながらの作業は苦しいものがあり、遊びの無い仕事で一心不乱です。次年度は新しいシステムも導入されることで、強い戦力を発揮してくれることが期待できると思います。

受診率の向上は実行されていますが、十分とはいえません。まずは職員健診の受診率が上がっていない。医療者が健診に対する関心を持ってもらうことから進めていかなければなりません。

今年は新人が多く、検査中のトラブルについての経験が少なかったために、トラブルの緊急対策などのスムーズな安全管理の検討、対策を立てること、マニュアル作成、記録を残すなどの検討を行いました。待合室のアメニティ対策として、受診者からのアンケートを基にして検討し、絵を飾ること、カーテン、観葉植物、調度品のアレンジ、お茶セットなどを備えたが、まだサービスとしては不十分であり、今後さらに進めていく予定です。

今年の計画として種々の健診項目、オプション、健診セットを企画したが、実行が十分とは言えず次年度に繰り越されるが、継続して検討していきます。

さらに重要なのは、医療、行政、介護、受診者となられる住民との連携であり、料金、助成金の問題をスムーズにし、受診数の制限を可及的に無くするところまでいきたいと思います。来年度は新しい健診システムも出来ますので、より能率的に活動できると思いますのでご期待ください。

なにしろ、当院の健診事業は歴史が新しいものですから、新しいことには挑戦しやすい面もありますので、皆様のご意見も重視しながら取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



外来診療担当医表 平成25年 3月

○平成25年3月の外来診療担当医表は、当院ホームページをご確認ください。○
<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/03sinryo/03gairaiDoctorList.html>

【お知らせ】毎週金曜日糖尿病外来、医師不在のため休診となっておりますが
4月より、第2・第4金曜日で再開いたします。

平成25年1月患者数実績：資料提供 医事課

入院患者数(一般)	219.1人
外来患者数(一般)	614.1人
平均在院日数	13.5日
病床利用率	67.4%

紹介率	59.2%	逆紹介率	42.5%
-----	-------	------	-------

お知らせ

NST勉強会のご案内

日時：平成25年3月21日(木曜日)

17:15~18:15

テーマ：「経腸栄養剤の下痢、
腸内環境について」

講師：株式会社 明治
三輪 卓也氏

対象：医療・介護・福祉関係者のみなさま

お問い合わせ：十和田市立中央病院
栄養科 0176-23-5121(内線 2292)

糖尿病教室のお知らせ

日時：平成25年4月から

毎月第2・4水曜日 10:00~10:30

場所：中央病院 本館1階 糖尿病外来前 待合室
テーマ：4月は「自分の薬をもっと知ろう」

テーマは毎月かわります

講師：片野春人先生、薬剤師、栄養士などの院内
コメディカル

対象：糖尿病患者やそのご家族、糖尿病について
興味のあるかたなどなたでも。

お問い合わせ：十和田市立中央病院 糖尿病外来
担当：福沢 0176-23-5121(内線 7570)

【厚生労働省 在宅医療連携拠点事業】

薬剤師在宅研修会 多職種で推進する在宅医療

平成25年2月24日(日)

当院別館2階講堂において
社団法人 宮城県薬剤師会
副会長 瀬戸 裕一 先生を
お招きし、約100名の
青森県薬剤師会会員および
在宅医療・在宅介護に関わ
る様々な方を対象に研修会
を開催しました。



今月のアート「日差しがほしいな」
画 畑中 光昭